

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要について

横須賀市教育委員会

平成 30 年 4 月 17 日（火）に小学校 6 年生・中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

横須賀市では、本調査について、限られた教科および学年での実施であることやそれぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学校教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

I 調査の趣旨

(1) 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、検証改善のサイクルを確立する。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

*主として「知識」に関する問題（A問題）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

*主として「活用」に関する問題（B問題）

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

②児童生徒に対する質問紙調査

*学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(3) その他

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の数値による結果については、市としても各学校としても公表はいたしません。

II 横須賀市小学校の結果

1. 教科別平均正答率結果

(%)	国 語		算 数		理 科
	A	B	A	B	
横須賀市	66	52	60	47	58
神奈川県	70	54	64	52	60
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

2. 各教科の概要

【小学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと (A問題¹)
 - ・相手や目的、場面、状況などに応じて適切に話すことは、おおむね良好である。
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと (A問題⁶)
 - ・慣用句の意味と使い方を理解し、文の中で適切に用いることは、おおむね良好である。
- 互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合うこと (B問題¹一二)
 - ・話し合いの参加者として質問の意図を捉えること、計画的に話し合うために司会の役割について捉えることは、おおむね良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと (A問題⁵)
 - ・主語と述語、修飾と被修飾の関係をはっきりさせるとともに、文意が明確か読み直したり、必要に応じて書き直したりすることに課題がある。
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと (A問題⁷)
 - ・相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語をはじめ、丁寧な言い方などについて理解することに課題がある。
- 学年別漢字配当表に示された漢字を正しく使うこと (A問題⁸)
 - ・学習した漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読むこと (B問題³二)
 - ・書き手の違う複数の本を読み比べながら、自分の考えを明確にし、それを条件に合わせてまとめて書くことに課題がある。

【小学校 算数】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 異種の二つの量の一方が揃っているときの比べ方に関すること（A問題⁴（1））
 - ・異種の二つの量のうち、一方の量が揃っているときの混み具合の比べ方の理解については良好である。
- 角の大きさの求め方に関すること（A問題⁵（1））
 - ・ 180° の角の大きさの理解については良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

- 計算の意味の理解と演算決定に関すること（A問題¹（2）、（3）、²）
 - ・二つの数量の関係を理解し、それを数直線に表すことや、小数の除法の意味の理解に課題がある。
- 折れ線グラフの読み取りに関すること（A問題⁹）
 - ・折れ線グラフから変化の特徴を読み取る力に課題がある。
- 示された情報を解釈し数理的に処理したり、判断したりすること（B問題²）
 - ・示された複数の情報を解釈し、条件に合う事象を求めたり、判断したりする力に課題がある。
- 複数の情報を関連付けて論理的に考察し、根拠を明確にして説明したり、判断したりすること（B問題⁵）
 - ・問題場面の数量等を解釈し、関連付けて論理的に考察し、根拠を明確にして説明したり、条件に合う事柄を適切に判断したりする力に課題がある。

【小学校 理科】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 自然の事物・現象への関心・意欲・態度に関すること（問題1（1））
 - ・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、観察する方法を構想できる力が良好である。
- 観察・実験の技能に関すること（問題4（1））
 - ・ろ過の操作方法など、機器について適切に取り扱う力が良好である。

＜課題があるとみられる内容＞

- 自然の事物・現象についての知識・理解に関すること（問題2（1））
 - ・水の堆積作用について、具体物と科学的な言葉や概念を関係づけて理解することに課題がある。
- 科学的な思考・表現に関すること（問題3（3））（問題4（4））
 - ・電流の流れ方について、実験結果からより妥当な考えに改善することに課題がある。
 - ・食塩水の蒸発について、実験目的や実験結果をもとにした考察をすることに課題がある。

3. 児童質問紙調査（小学校6年生）の結果概要

（1）概要

〔肯定的な回答が90%以上の主な項目〕

- 朝食を毎日食べている
- 人の役に立つ人間になりたいと思う
- 家で学校の宿題をしている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 算数の勉強は大切だと思う

〔全国と比較して肯定的回答が上回っている主な項目〕

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている（85.4〔全国85.3〕）
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている（81.5〔全国80.5〕）
- 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある（87.7〔全国87.0〕）
- 5年生の時理科の授業が面白いと思ったことがある（87.6〔全国87.5〕）

〔課題と見られる主な項目〕 * 全国平均と比較し、大きく差がある項目

- 普段の勉強時間が1時間以上である（56.0〔全国66.2〕）
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている（60.1〔全国67.6〕）
- 家で学校の予習・復習をしている（53.6〔全国62.6〕）
- 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している（61.0〔全国69.9〕）
- 新聞を読んでいる（12.1〔全国19.9〕）
- 今住んでいる地域の行事に参加している（57.2〔全国62.7〕）

（2）質問紙調査からみられる傾向と課題

【学習】

「家で学校の宿題をする」という項目では、90%以上の肯定的な回答と共に、全国平均を上回っており、しっかりと定着していることが明らかとなりました。一方で、「家で学習する時間」の項目では、全国と比べて5ポイント以上差が開いており、課題として捉えられます。また、「自分で計画を立てて勉強をすること」や、「予習・復習をすること」の項目についても5ポイント以上差が開いています。やるべき課題として出された学習には取り組むことができますが、自分から進んで学習をすることへの意識が低い傾向にあります。何のために学習をするのかといった学習する意義をしっかりと自覚していくことが大切になります。

【生活】

昨年度と同様に「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目では全国と比べて5ポイント以上差が開いていました。子どもたち自身も地域の一員であるという意識は、今後の学習においても大切です。学校での学習と共に家庭においても地域の行事に参加したり、地域の方と積極的に関わったりする機会を設けていただくよう促すことも必要となります。

Ⅲ 横須賀市中学校の結果

1. 教科別平均正答率結果

(%)	国 語		数 学		理 科
	A	B	A	B	
横須賀市	73	59	63	44	63
神奈川県	76	62	66	48	66
全 国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

2. 各教科の概要

【中学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くこと（A問題 $\boxed{1}$ 一）
 - ・話し手の意図に注意しながら、内容を的確に捉えて聞くことはおおむね良好である。
- 学習した漢字を正しく読むこと（A問題 $\boxed{8}$ 二）
 - ・学習した漢字を文脈に即して正しく読むことはおおむね良好である。
- 質問の意図を捉えたり、必要に応じて質問したりすること（B問題 $\boxed{2}$ 一二）
 - ・質問の意図を捉えたり、目的や場面に応じて質問したりすることは、おおむね良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 文脈にあった漢字を正しく書くこと（A問題 $\boxed{8}$ 一）
 - ・学習した漢字を文脈に即して正しく書くことに課題がある。
- 行書の基礎的な書き方を理解して書くこと（A問題 $\boxed{8}$ 五）
 - ・行書の基礎的な書き方の理解、文字全体のバランスの捉え方に課題がある。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと（A問題 $\boxed{8}$ 六二）
 - ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。
- 文章の構成や展開について自分の考えをもつこと（B問題 $\boxed{1}$ 二）
 - ・複数の資料から説明を引用する効果や意図を捉えることに課題がある。

【中学校 数学】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 数直線上に示された負の整数を読み取ること（A問題 $\boxed{1}$ （1））
 - ・数直線上に示された負の整数を読み取る力は良好である。
- 問題場面における考察対象を明確に捉えること（B問題 $\boxed{2}$ （1））
 - ・問題場面を理解し、簡単な具体的場合について考える力は良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 正の数・負の数とその計算に関すること（A問題 $\boxed{1}$ （2）、（3））
 - ・絶対値の意味の理解や、指数を含む正の数・負の数の計算の力に課題がある。
- 文字式の利用に関すること（A問題 $\boxed{2}$ （1）、（3））
 - ・数量の関係や法則等を文字式や不等式に表したり、文字式に数を代入して式の値を求めたりする力に課題がある。
- 関数の意味・変域・グラフに関すること（A問題 $\boxed{9}$ 、 $\boxed{11}$ ）
 - ・比例・反比例・一次関数の意味や値の変化、変域、グラフと表の関連等を理解し、関連付けて考える力に課題がある。
- 不確定な事象の数学的な解釈と判断に関すること（B問題 $\boxed{1}$ ）
 - ・不確定な事象を含む問題場面についての情報を分類整理し、必要な情報を適切に選択して判断したり、事象を数学的に解釈し、根拠を説明したりする力に課題がある。

【中学校 理科】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- ガスバーナーの燃焼についての実験の技能に関すること（問題4（1））
 - ・ガスバーナーの空気の量を調節するための適切な操作方法についてはおおむね良好である。
- 植物の様子の変化についての科学的な思考・表現に関すること（問題9（2））
 - ・湿度が高くなった時の植物の変化について、原因を指摘できることはおおむね良好である。

<課題があるとみられる内容>

- 科学的に探究する学習活動を通して、実験の技能を身に付けていること（問題2（2））
 - ・水溶液の濃度について特定の質量パーセント濃度を指摘することに課題がある。
- 科学的に探究する過程において、思考・表現に関すること（問題4（3））
 - ・化学変化と原子や分子のモデルを関係づけて説明することに課題がある。
- 地震の揺れの伝わりに関する知識を身に付けていること。（問題7（1））
 - ・地震の揺れが震度であることやS波による揺れが主要動であることの知識を身に付けることに課題がある。

3. 生徒質問紙調査（中学校3年生）の結果概要

(1) 概要

〔肯定的な回答が90%以上の主な項目〕

- 学校の規則を守っている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 人の役に立つ人間になりたいと思う

〔全国と比較して肯定的な回答が上回っている主な項目〕

- 1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う (73.5 [全国 68.7])
- 理科の授業で、自分の考えや考察を周りの人に説明したり発表したりしている (44.2 [全国 41.4])

〔課題とみられる主な項目〕 *全国平均と比較し、大きく差がある項目

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている (43.0 [全国 52.1])
- 家で学校の授業の予習・復習をしている (45.9 [全国 55.2])
- 普段の読書の時間が1時間以上である (22.8 [全国 30.9])
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある (53.9 [全国 59.3])
- 新聞を読んでいる (8.3 [全国 13.9])
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う (65.7 [全国 72.9])
- 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う (45.3 [全国 55.7])

(2) 質問紙調査からみられる傾向と課題

【学習】

「自分で計画を立てて勉強している」といったことや、「家で学校の授業の予習・復習をしている」という項目では、全国と比べて5ポイント以上差があり、課題として捉えられます。これは、「数学や理科の授業で学習したことが役に立つと思う」という項目の肯定回答が低いことと関連して、学習に対しての意義を感じられていないといったことが一つの要因と捉えられます。これからの学習では、自分たちが学習していることがどう活かされ、大切であるかといったことについても身に付けていくことが必要になります。

【生活】

学校の規則を守ることやいじめについての意識については、肯定的な回答が高い状況でした。昨年度に引き続き、規範意識が高いことがわかり、横須賀の生徒の特長と捉えられます。

一方で、地域に対しての関心が薄く、ボランティア活動や地域のために考えるといった項目についても肯定的な回答は全国と大きく差が見られました。地域社会の一員といった意識を高めるためにも、学校、家庭で地域と関わる機会を持つことが大切となります。

IV 全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取組について

小学校においては、昨年度の結果と比較をすると、国語Bについては、全国平均正答率との差が大きく縮まっています。また、その他の教科についても多くが昨年度を上回る結果となりました。

中学校においては、全国平均正答率との差がマイナス5ポイント以内であり、ほぼ全国並みと捉えることができますが、ほとんどの教科で昨年度と比較すると差が広がっています。

本年度の中学校3年生が平成27年度6年生の時の調査と比較すると、各教科において、伸びが見られ、各教科の力をしっかりとつけることができていると捉えられます。

一方で、本年度の結果では、小中学校ともに、全国平均正答率を上回る教科はなく、未だ課題があり、その課題解決を引き続き図っていく必要があります。

児童生徒質問紙に関する今回の調査結果からは、小学校と中学校で同じ傾向がみられる設問がいくつかありました。

横須賀市の子どもたちは、学校での宿題に対する取組については良好であるものの、授業の予習・復習や自主的な学習を計画的に取り組むということに課題があるということがわかりました。また、各教科の大切さについて問う設問では、肯定的な回答の割合が全国と比べても低く、「何のために学習をするのか」といった学習の意義を捉える意識が低いことがわかりました。自ら学習を進めていくためには、その学習の大切さをしっかりと覚えることが重要です。そうした意識が高まることで、各学校から課される宿題に取り組むだけでなく、授業の内容をしっかりと理解するために、もう一度家庭学習において振り返るといったことや、自分の学習上の課題を踏まえ、その課題を解決するために計画を立てて学習をするといったことにつながります。

また、地域の行事に参加することや地域社会で起こっていることに興味を持つことを問う設問においても肯定的な回答の割合が低いことも特徴として表れています。新学習指導要領では、子どもたちが地域社会の一員としての意識を高めることが「社会に開かれた教育課程」の理念からも大切だとされています。こうした意識は学校の授業はもちろん、地域との関わりを持つ機会が設定されるなど、家庭・地域との連携が不可欠です。

市内各学校においては、自校の調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしています。全体的な傾向だけではなく、問題レベルまでの分析を行い、自校の児童生徒がどの教科のどの領域に課題があるのかといった詳細な分析を行い、指導改善につなげている実践も見られます。そうした取組によって、昨年度と同集団での経年変化を視点におくと、学力向上の取組の成果が大きく表れている学校もあります。

今後もこれまでの取組を継続しつつ、学力向上に向けて多角的な視点を持ち、学校と家庭、教育委員会がしっかりと連携をとり、本年度の学習状況の課題を解決するべく取組を推進していきます。